

. ヒアリング調査結果

1. 高齢者の自立支援

- (1) 甲武見守り隊・女6人衆
- (2) 社会福祉法人 神戸福生会
- (3) 社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会
- (4) 特定非営利活動法人 東灘地域助け合いネットワーク
- (5) 特定非営利活動法人 わ・輪・Wa尼崎

2. まちのにぎわいづくり

- (1) 安井まちづくり協議会
- (2) 伊丹ターミナルデパート商業協同組合
- (3) ウエストコーストぐんげ商店街協同組合
- (4) 川西能勢口振興開発株式会社（かわにしTMO）
- (5) 特定非営利活動法人 ダッシュ明石

Ⅲ. ヒアリング調査結果
1. 高齢者の自立支援

【調査団体の概要・活動状況】

団 体 名	甲武見守り隊 女6人衆	市営樋ノ口町2丁目住宅 県営西宮樋ノ口高層・鉄筋住宅
所 在 地	西宮市樋ノ口町2丁目	
概 要	<p>■設 立</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成14年1月 「女6人衆」設立 平成16年4月 「甲武見守り隊」設立 <p>■事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ウォーキング等による地域の見守りを通じた児童への声かけ、非行防止及び児童虐待の防止、高齢者の見守り等のためのパトロール（甲武見守り隊） コーヒー、トースト、果物の提供等のサロン活動によるコミュニティづくり、高齢者の見守り等（女6人衆） <p>■活動人員</p> <ul style="list-style-type: none"> 甲武見守り隊 52名 女6人衆 6名 	
主な活動状況	<p>■甲武見守り隊</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民が見守りボランティアとして屋外でのパトロールを実施している。（また、犬を散歩する地域住民が別途ワン犬見守り隊を組織し、同様のパトロールを実施。） 屋外にいる子どもへの声かけや不審者の監視のほか、高齢者の見守り活動も実施している。 高齢者の見守り活動については、朝晩のパトロール時において、部屋のカーテンが閉まったままとか新聞が何日間も溜まったままなどの不審な状況があれば、民生委員に連絡するなどの対応をしている。 パトロールについては、7～15人程度で、腕章を着けて実施。 <ul style="list-style-type: none"> 第1・3金曜日 15:00～ 第2・4金曜日 17:00～ 春・夏・冬休み時 毎週金曜日 19:00～ <p>※子どもへの声かけパトロール時間（その他のパトロールは随時）</p> <p>■女6人衆</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の集会所である憩いの家で、コーヒー、トースト、果物等を提供するジューバーサロンを開催している。（第2・4月曜日 10:00～） 参加者は平均60名で、団地外からも概ね1割程度参加がある。 欠席している者がいれば、声かけを行うなどの見守り活動も実施している。 	



<甲武見守り隊>



<ジューバーサロン>

【復興の現状認識・課題・取り組み方策】

<p>復興の現状認識</p>	<p>■地域全体の復興 1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p> <p>■高齢者自立支援分野の復興 1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p>
<p>取り組みの成果・課題</p>	<p>■地域が主体となった見守り活動の展開 ・自治会が、復興住宅居住者を始めとする新しい住民を積極的に取り込んでおり、その自治会が中心となって、地域全体の見守りを行うためのボランティアを組織化している。 ・ボランティアには高齢者も参加し、地域の一員として役割を担っているなど、地域で共に助け合う体制をつくっている。</p> <p>■地域に開かれた集いの場づくり ・地域の集会所でもある憩いの家を拠点として、サロンを始め、卓球、カラオケ、麻雀など多様な活動を実施している。 ・このことにより、地域全体の幅広い人々が頻繁に憩いの家を訪れ、地域コミュニティの中心として活用されており、住民相互の交流が深まっている。</p> <p>■引きこもっている人への声かけ ・見守り活動やサロンなどにも参加せず、引きこもっている人がいるので、そういう方々にも声かけを行い、誘い出していく必要がある。</p> <p>■地域コミュニティの再生 ・地域での向こう三軒両隣といった身近な声かけが段々無くなってしまっている。見守り活動やサロンなどを通して、これをどのように復活させていくのが課題であり、隣同士、高齢者同士、子育て世帯同士などの身近な声かけが必要である。</p>
<p>今後の取り組み方策</p>	<p>■地域で住民が気軽に集まれる「ひろば」機能の必要性 ・地域コミュニティにおいて、住民相互の日常的な関係を維持し、深めていくためには、住民が気軽に集まれる「ひろば」が必要であり、「ひろば」づくりを支援していく必要がある。</p> <p>■支援にかかる情報提供 ・自治会からの助成や県社協ボランティア助成金で活動しているが、活動資金が不足しているため、十分な活動が難しい。行政等から地域団体へ様々な支援の情報が行き届くような仕組みづくりが必要である。</p>

【調査団体の概要・活動状況】

団 体 名	社会福祉法人 神戸福生会 (高齢者ケアセンターながた)
所 在 地	神戸市長田区北町3-3
概 要	<p>■法人設立 ・昭和26年12月 (社福) 福生会設立 (大阪)</p> <p>・平成8年4月 法人分離により (社福) 神戸福生会設立</p> <p>■施設開設 ・昭和56年4月 特別養護老人ホーム永栄園開設</p> <p>・平成5年4月 高齢者ケアセンターながた開設</p> <p>・平成13年4月 高齢者ケアセンターひょうご開設</p> <p>■施設内容 (高齢者ケアセンターながた) 地下1階、地上7階</p> <p>・1階 西部高齢者介護支援センター (地域包括支援センター、 デイサービスセンター)、居宅介護支援事業所、訪問介 護事業所</p> <p>・2階 特別養護老人ホーム 長田ケアホーム 定員50名 西部高齢者介護支援センター 定員20名 短期入所生活介護 定員20名</p> <p>・3～7階 シルバーハイツ長田北 (高齢者向け市営住宅) 38戸</p>
主な活動状況	<p>■特別養護老人ホーム</p> <p>・入所者70名、平均年齢86歳 ・認知症高齢者60名</p> <p>・介護福祉士・社会福祉士・看護師・医師・管理栄養士などを配置し、介護 サービス計画、栄養マネジメント、重度化対応などを実施</p> <p>■ショートステイサービス</p> <p>・利用者：6,205人、1日平均：16.5人、平均稼働率：85% (送迎対応)</p> <p>■デイサービスセンター</p> <p>・介護給付・介護予防給付に対応 ・定員35名、1日平均：28.7人</p> <p>■ホームヘルプサービス</p> <p>・ホームヘルパー15名 (24時間サービス)、介護保険法・障害者自立支援法 (居宅介護) に対応</p> <p>■居宅介護支援事業所</p> <p>・介護支援員6名、予防給付マネジメント 認定調査員2名</p> <p>■在宅介護支援センター</p> <p>・地域包括支援センターと一体的に運営</p> <p>・神戸市あんしんすこやかプランを実施</p> <p>■シルバーハイツ長田北</p> <p>・38戸 L S A 常駐 平均年齢79歳</p> <p>■地域包括支援センター</p> <p>・神戸市から業務を受託し、看護師・社会福祉士・主任ケアマネージャーを 配置。予防給付対象者277名 (H19.2月現在)</p> <p>■片山コレクティブハウジング</p> <p>・38戸 ケアセンターながたから L S A を派遣 平均年齢78歳</p>



<高齢者ケアセンターながた>



<集会所での交流会>

【復興の現状認識・課題・取り組み方策】

<p>復興の現状認識</p>	<p>■地域全体の復興 1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. <input type="checkbox"/> やや遅い <input type="checkbox"/> 5. かなり遅い</p> <p>■高齢者自立支援分野の復興 1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. <input type="checkbox"/> やや遅い <input type="checkbox"/> 5. かなり遅い</p>
<p>取り組みの成果・課題</p>	<p>■地域包括支援センターの機能強化による地域コミュニティ支援 ・地域包括支援センターに看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員の他に、地域コーディネーターとして見守り推進員を区社協からの委託で配置（神戸市独自）し、友愛訪問グループの結成から活動といったコミュニティづくりを支援している。</p> <p>■サポート体制の確立 ・在宅介護支援センターとL S Aを連携させることにより、休日や夜間でも対応できる体制を整えているほか、困難事例については、施設がバックアップするなど組織として対応している。 ・支援センターと見守り推進員を核にして、S C SとL S Aなどと連携し、一体となって住民自治を動かしていく必要がある。</p> <p>■地域でのネットワークづくり ・地域包括支援センターが中心となって、医師会、民生委員、自治会長のほか、対住民のキーパーソンとして商店主や郵便局員、銭湯の経営者なども加わり、情報交換会としての小地域ネットワーク会議を2ヶ月に1回開催し、地域でのネットワークづくりに取り組んでいる。</p> <p>■自治会の崩壊 ・シルバーハウスの住民は個々が寄せ集まってきた存在であり、生活の共有感情が持ちにくい状況にある。そのため、自治会を立ち上げて自治会長が辞めてしまうと、次のなり手がなく、自治会自体のまとまりがなくなって崩壊してしまい、再び立ち上げることが困難になる。</p>
<p>今後の取り組み方策</p>	<p>■住民と一体となったコミュニティ支援 ・L S Aの支援やシルバーハウジングという背景により、住宅の中で生活が完結してしまい、地域から孤立する状況が生まれつつある。専門家がコミュニティに入り込んで解決するのでは施設と変わらないため、専門的な支援をするということにとどまるだけでなく、コミュニティの一人として、住民に協力を得て、助けてもらい支えあっていく必要がある。</p> <p>■支援者と地域との連携の強化 ・支援者や住民が共同で活動できるオープンなスペースを準備するとともに、住民を支援する専門家が孤立しないよう、地域包括支援センターが地域（民生委員・自治会等）を巻き込んでサポートする必要がある。</p> <p>■公的機関等によるバックアップ ・福祉の現場に携わっているL S Aやヘルパー等のスタッフが、夜間・休日の緊急対応など困難な事例への対応について、安心して円滑に業務が遂行できるように、事業所並びに行政等公的機関等がバックアップする環境や体制づくりが必要である。</p>

【調査団体の概要・活動状況】

団 体 名	社会福祉法人 宝塚市社会福祉協議会
所 在 地	宝塚市安倉西 2 - 1 - 1
概 要	<p>■設 立 昭和43年 2月28日(社会福祉法人として厚生省認可)</p> <p>■事業内容 地域福祉推進、ボランティア活動センター、相談・福祉サービス利用援助事業、在宅福祉サービス事業、児童高齢施設管理運営事業、総合福祉センター管理運営事業、募金活動等</p> <p>■職 員 数 333名(嘱託職員、契約職員、ふれあいヘルパーを含む) 高齢世帯生活援助員(SCS) 6名(平成18年10月1日現在)</p>
主な活動状況	<p>■地域福祉の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域福祉活動拠点管理・運営事業 <ul style="list-style-type: none"> ・社協地区センター、よりあいひろば ○地域福祉活動支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・福祉コミュニティ支援事業、子育て支援活動サポート事業等 ○見守り・生活支援事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいいきいきサロン支援事業、民児連・民児協との連携強化、緊急通報システム、ミニデイサービス支援事業、高齢者生活援助事業等 ○広報・啓発事業 <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉大会開催、広報発行、ホームページ運営、行事用備品貸出等 <p>■ボランティア活動センター事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアグループ助成事業、ボランティア相談、ボランティアコーディネート <p>■相談・福祉サービス利用援助事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター、在宅介護支援センター、福祉サービス利用援助事業、ふれあい福祉センター相談事業、障害者自立生活支援センター <p>■在宅福祉サービス事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者支援センター、通所介護、居宅介護支援、ホームヘルプサービス、要介護認定調査事業、訪問看護 <p>■会館運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合福祉センター運営、老人福祉センター運営、児童館運営 <p>■募金活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤い羽根共同募金活動、歳末助けあい愛の持ち寄り運動等 <p>■高齢者の見守りに関する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢世帯生活援助員(SCS)の派遣：6名(対象戸数：322戸) ・復興住宅ネットワーク会議の開催 ・高齢者自立支援ひろばの設置 平成18年度は県営福井鉄筋住宅、総合福祉センター内に設置(平成19年度はさらに2箇所を設置する見込み)



<ふれあいサロン>



<復興住宅ネットワーク会議>

【復興の現状認識・課題・取り組み方策】

<p>復興の現状認識</p>	<p>■地域全体の復興 1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p> <p>■高齢者自立支援分野の復興 1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p>
<p>取り組みの成果・課題</p>	<p>■地域主体の高齢者見守りシステムの発足 ・高齢化率の高い復興住宅では自治会活動が後継者不足により難しくなっており、周辺住民とのコミュニケーションも取りにくくなっている状況が見受けられた。そのような状況を踏まえ、高齢者の自立した生活を支援するために、地域が主体となって常駐型の見守りを始めとした多様なサービスを提供する「高齢者自立支援ひろば」を開設した。 ・以前は高齢世帯生活援助員のみが支援をしている状況であったが、「ひろば」の開設によって民生委員、ボランティアグループと連携した支援体制が生まれた。今後は周辺自治会やまちづくり協議会に支援や活動を広げていくことが求められる。</p> <p>■まちづくり協議会の福祉活動の充実 ・おおむね小学校区単位でまちづくり協議会が結成されており、社会福祉協議会がまちづくり協議会の活動を支援することによって、地域の福祉コミュニティづくりが活発に行われている。今後は、まちづくり協議会ごとに、多くの人が多面的にかかわれるような活動拠点を置き、活動を広げていくことを目標としている。</p> <p>■地区担当ワーカーによる福祉コミュニティづくりの推進 ・市内を7地区に分け、地区ごとにコミュニティワークを行う職員を配置している。コミュニティワークを重点的に行う職員がいることによって、地域住民に地区センターの活動が認識され、福祉コミュニティづくりが進んでいる。</p> <p>■ボランティア意識の高まり ・震災の経験や長年にわたるまちづくり協議会・ふれあいサロンの取り組みが住民のボランティア意識の高まりにつながっている。</p>
<p>今後の取り組み方策</p>	<p>■地域の活動拠点づくりへの支援 ・高齢者が安心して、自立して生活できるために地域主体の見守りが行えるような活動拠点が必要である。さらに、高齢者自立支援ひろばの開設、地域住民への周知を図り、また、高齢者自立支援ひろばを地域住民や世代間での交流の場に広げる取り組みが必要である。</p> <p>■適切な情報共有の必要性 ・地域で高齢者を支援していくためには、支援者が地域住民の生活状況を把握しておくことが重要である。個人情報の保護に留意しながら、適切に要援護者の情報を把握する仕組みづくりが必要である。</p> <p>■さらなる介護予防の充実 ・介護保険の使い方がわからずに支援が受けられない高齢者がいるという現状を踏まえ、復興住宅に限らず一般住宅の高齢者に対しても、介護保険制度の周知徹底を図るとともに、閉じこもり予防のためのサロンの展開や、健康講座の開設などの介護予防のさらなる充実が必要である。</p>

【調査団体の概要・活動状況】

団 体 名	特定非営利活動法人 東灘地域助け合いネットワーク
所 在 地	神戸市東灘区御影本町6丁目15-17 御影旨水館(御影市場)
概 要	<p>■設 立 平成7年2月2日(平成13年11月にNPO法人化)</p> <p>■事業内容 福祉車両による移送サービス、日常生活支援、音声パソコン指導、カルチャー教室、生きがい対応型ミニデイサービス、リサイクルショップ、阪神御影駅前駐輪場の管理、情報提供、研修学習、まちづくり、子どもの健全育成、環境保全</p> <p>■スタッフ 専従スタッフ 12名 有償ボランティア 85名 無償ボランティア 25名</p>
主な活動状況	<p>■誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指した様々な活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御影市場「旨水館」内に拠点を構え、子どもから高齢者までの地域住民を対象に、福祉のまちを目指した様々な活動を行っている。 <p>○日常生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・買い物代行、食事介助、外出介助、掃除、植木の剪定など介護保険サービス外の日常生活に関する支援を行っている。 <p>○福祉車両による移送サービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通院、リハビリ、買い物、最寄りの駅までの利用など外出の支援を福祉車両によって行っている。 <p>○生きがい対応型ミニデイサービス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸市から委託を受けて、茶道、折り紙、ゲーム、手芸などのミニデイサービスを、65歳以上の閉じこもりがちな方や、介護保険で特定高齢者の認定を受けた方を対象に行っている。 <p>○カルチャー教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大人を対象とした書道、絵てがみ、パッチワークや、子どもを対象とした英会話、習字、そろばんなど、様々なカルチャー教室を開講している。 <p>■リサイクルショップの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄付で集められた品物をリサイクルし安価で提供するリサイクルショップを運営している。 <p>■阪神御影駅前駐輪場の管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神戸市から自転車駐輪場管理業務を受託し、阪神御影駅前駐輪場の管理を行っている(平成17年8月1日～)。



<ミニデイサービス>



<カルチャー教室>

【復興の現状認識・課題・取り組み方策】

復興の現状認識	<p>■地域全体の復興</p> <p>1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p> <p>■高齢者自立支援分野の復興</p> <p>1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p>
取り組みの成果・課題	<p>■地域主体の高齢者見守り体制の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民自らによる継続的な見守り活動の必要性から、復興住宅での喫茶運営を住民へ引き継ぐことを目標とした。喫茶運営の初期費用は行政の補助を活用し、準備が整った。見守り推進員や民生委員と連携し、喫茶の立ち上げから住民にかかわってもらったことで、1年後、住民への引継ぎがスムーズに行われた。 <p>■誰もが安心して生活できる地域を目指した取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独居の男性高齢者は特に支援の手が及びにくいといわれているため、「囲碁教室」や「観て歩こう会」など、男性が参加しやすい講座を開き、居場所づくりに取り組んでいる。 ・高齢化の進展にともない、震災復興だけに支援を限定せず、居場所づくりや生きがいつくりなど、広く高齢者の生活支援をしていく必要がある。震災以来継続して行ってきた復興住宅巡回などの復興支援事業を今年度でひとまず終了し、今後は個人のボランティアに復興支援を委ねる。 <p>■ボランティアの確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体発足時は無償のサービスを主に行っていたため、支援者に経費を払えない状況であった。その後、活動資金を得るため有償サービスや賛助会員制度を開始し、有償ボランティアを確保してきた。 ・支援者は60代、70代が中心で若年層の支援者はわずかである。しかし、震災直後から支援してきた被災高齢者がカルチャー教室の講師を務めるようになり、また団塊の世代や退職者の男性の参加が増えるなど、新たな支援の輪が広がっている。 <p>■地域住民とのコミュニケーションの必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人も地縁団体もともに高齢化、人手不足である。しかし地域が抱える課題は多く、NPO法人と地縁団体が協力することで解決できることがたくさんあるので、役割分担をしながら緩やかな連携をとることで住みよい地域づくりにつなげていく。 ・学生、お年寄り、多くの住民とコミュニケーションの取れる場づくりを意識して、自転車駐輪場管理業務を受託し、阪神御影駅前駐輪場の管理を行っている。今後も、地域住民とコミュニケーションの取れる場づくりを拡充していく。
今後の取り組み方策	<p>■地域住民の生活に密着した活動拠点の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動拠点となっている事務所は商店街の一角にあり、地域住民の生活に密着した場所で支援活動が行われている。安定した活動拠点づくりをさらに進め、生活支援を強化し、誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献していく必要がある。 <p>■助成制度を有効に活用するための情報提供の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人が助成制度や指定管理者制度を有効に活用するための行政からの適切な情報提供が必要である。

【調査団体の概要・活動状況】

団 体 名	特別非営利活動法人 わ・輪・Wa 尼崎
所 在 地	尼崎市東園田町2丁目96-1
概 要	<p>■設 立</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成17年12月18日設立（平成18年4月24日にNPO法人化） 復興住宅でのLSA（生活援助員）の経験を基に、援助等が必要な高齢者やその他地域住民に対して、他の関係団体とも連携しながらさまざまな事業を行うことで、誰もが安心して暮らし続けられるための仕組みづくりに貢献し、合わせて地域福祉の増進に寄与することを目的として設立。 <p>■事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護保険法に基づく居宅介護支援事業 高齢者・要援護者に対する介護予防・生活支援事業 権利擁護及び成年後見制度利用に関する相談・支援事業 保険と福祉に関する調査研究と相談助言事業 世代間交流を図るふれあい交流事業 会報発行及び福祉情報の広報に関する事業 <p>■スタッフ数</p> <ul style="list-style-type: none"> 17名（LSA、ボランティア等）
主な活動状況	<p>■福祉相談、介護保険法に基づく居宅介護支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域で暮らす高齢者や要援護者の生活相談や介護保険・福祉サービスの利用に関する相談・支援を行っている。 <p>■見守りサポーター養成講座の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 誰もがいつまでも地域で暮らし続けるために必要な住民同士の助け合い、支え合いについて考え、見守り活動を行うサポーターを養成する講座を計4回実施した。 <ul style="list-style-type: none"> 特別養護老人ホーム施設長による講演（第1回） ふれあい喫茶等見守り活動の見学（第2回） 認知症の方への接し方についての講義（第3回） 活動実践者による講義（第4回） <p>■「わわわサロン」の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務所1階で「わわわサロン」（お茶会）を月1回開催し、地域の方々が交流を楽しめる場を提供している。 <p>■「地域を結ぶ笑顔の会」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> LSA、福祉施設職員等が結成したボランティアグループ「地域を結ぶ笑顔の会」と協力し、復興住宅における夏まつり等のイベント開催を支援している。



<わ・輪・Wa 尼崎 事務所>



<わわわサロン(お茶会)>

【復興の現状認識・課題・取り組み方策】

<p>復興の現状認識</p>	<p>■地域全体の復興 1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p> <p>■高齢者自立支援分野の復興 1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p>
<p>取り組みの成果・課題</p>	<p>■L S A間の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化率が50%を超えている復興住宅において、外部からの支援なくしての自治会運営は難しい。L S Aも高齢者の支援だけでなく、復興住宅全体のコミュニティー支援という役割を担わねばならない状況である。 ・見守り活動を通じて、他の様々な支援者との間にネットワークを築くことができる。その結果、気軽に相談できたり、応援を求めることができるようになる。 ・L S Aが中心となって結成した「地域を結ぶ笑顔の会」の取り組みを通じて、ある団地の自治会が機能しはじめ、団地内交流にとどまらない地域コミュニティーの形成につなげる形にまで導くことができた。 <p>■L S Aの取り組みの地域への拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、地域の住宅を借り、常駐による地域に根付いた支援を開始した。 ・誰もがいつまでも地域で暮らし続けるために必要な住民同士の助け合い・支え合いについて考える「見守りサポーター養成講座」を実施した。 ・地域に拠点を設けて活動していることで、近隣住民からの相談が最近増えてきている。 ・今後、「わわわサロン」を近くの集会場で開催するなどして、高齢者だけでなく、子どもたちその他さまざまな人々が集える場所にする必要がある。 <p>■取り組みの情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動状況や各種イベント等の情報を掲載した「わ・輪・W a 尼崎通信」を発行して、関連施設、関係者等に配布しているほか、ホームページによる情報発信も行っている。 ・事務所の壁面にメッセージボード（掲示板）を設置し、主催事業の情報発信を行っているほか、地域の人たちにも用途を限定せずに活用してもらうことで、地域とのつながりを形成していきたいと考えている。
<p>今後の取り組み方策</p>	<p>■情報交換等支援者間の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者同士における取り組みの情報交換など、各支援者間の緊密なネットワークづくりが見守り活動に効果を発揮する。しかし、現状は、各支援者の受け持つ担当業務の拘束が大きく、ネットワークづくりが困難であると同時に支援者同士を結ぶコーディネート能力も養成されていない。支援者同士が気軽に情報交換できるようなネットワークづくりのための支援が必要である。 <p>■支援者の常駐化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者が団地・地域の定まった場所に常駐していることで、住民は支援者の巡回を待たずとも、相談したいときに相談することができる。また、ふれあいイベント等を通じてその拠点に集まってもらうことで、支援者の人数が少なくとも効率的な見守りを行うことができる。シルバーハウジングに限らず、その他の団地、地域においても見守り支援者の常駐化を進めていくことが必要である。

2. まちのにぎわいづくり

【調査団体の概要・活動状況】

団 体 名	安井まちづくり協議会
所 在 地	西宮市城ヶ堀町3-9
概 要	<p>■設 立 平成7年11月30日 地区内12単位自治会を母体に発足</p> <p>■地区面積 約90ha (西宮市安井町、千歳町、寿町、平松町、常盤町、分銅町、末広町、江上町、城ヶ堀町、栢塚町、中前田町)</p> <p>■構成世帯 約5,300世帯(約11,300人)</p> <p>■事業内容 安井地区の安全で良好な快適なまちづくりを推進することを目的として、まちづくり計画の策定、地域通貨、防犯活動、緑化等の事業に取り組んでいる。</p>
主な活動状況	<p>■地区計画の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災からの復興にあたり、低層住宅と中高層住宅の乱立による住環境の悪化を防止するため、住民自らが立ち上がってまちづくり協議会を設立し、都市計画としての「地区計画」を策定した(平成10年3月告示)。 <p>■緑化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清潔で美しいまちづくりを推進するため、JR線沿い修景(緑・花)事業やプランターの花の植え替え等を実施している(平成11年～)。 <p>■地域通貨(マンボウ)の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民からの各種相談に対応するため、地域通貨(マンボウ)の取り組みを実施している(平成14年～)。 <p>■パトロール活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通の安全なまちづくり、防犯上安全なまちづくりの推進のため、迷惑駐車防止・防犯パトロール等を実施している(平成15年～)。 <p>■安井地区子供まち発見塾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まち歩きを通して、子どもたちに地区の良い点と悪い点、問題点を再発見させるなど、子ども会やPTA、防犯協会などの交流を深める活動を展開した(平成16年)。 <p>■バザーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会の活動資金確保のため、バザーを実施している(平成16年～)。



<沿線のフェンスを利用した緑化>



<まちづくり協議会バザー>

【復興の現状認識・課題・取り組み方策】

<p>復興の現状認識</p>	<p>■地域全体の復興 1. <u>かなり速い</u> 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p> <p>■まちなぎわいづくり分野の復興 1. <u>かなり速い</u> 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い ※復興としての課題は終了していると認識している。</p>
<p>取り組みの成果・課題</p>	<p>■地区計画策定を契機とした多彩なまちづくり活動の展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災からの復興まちづくりにおいて、住民自らが立ち上がり地区計画を策定し、その後も引き続いて、活動を活発に行うために緑化・福祉・防犯などの部会を設置するなどして、住民主体による多彩なまちづくり活動を展開している。 ・地区計画策定後の主要事業として、JR沿線のフェンスにハンギングプランタで飾花する事業を実施した。協議会の緑化部会が管理し、沿線住民が水やりをするという役割分担で実施し、この事業をきっかけとして、協議会の活動が継続した。 ・地域住民からの、買い物の手伝いや植木の剪定などの各種相談に対応するため、大学生の発案によるマンボウ（地域通貨）の取り組みを展開している。現在、会員は約60名だが60代がほとんどであり、若い世代にも参加してもらうため、小学校にも講義に行っている。 <p>■パートナーの重要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画が専門のまちづくりアドバイザーや大学生が、パートナー・スタッフとして地域通貨などのまちづくり活動に関わっており、重要な存在となっている。 <p>■まちづくり協議会と自治会との連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくり協議会と自治会の意見の食い違いが起りやすい。自治会長は任期2年のため、意思疎通ができる頃には交代になり、連携がうまくできていないので、もっと緊密な意見交換を行っていく必要がある。
<p>今後の取り組み方策</p>	<p>■真正面からの話し合いによるまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民が、まちづくりを他人任せにするのではなく、自分自身としての意見を明確に意思表示し、公と民の役割分担も踏まえながら、住民同士の思いを真正面から話し合っていく必要がある。 <p>■地域通貨を通じたコミュニティづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりの取り組みを定着させるため、住民同士の目と耳を働かせてのお節介焼きとしてマンボウ（地域通貨）の取り組みを充実させ、コミュニティづくりを進めていく必要がある。

【調査団体の概要・活動状況】

団 体 名	伊丹ターミナルデパート商業協同組合
所 在 地	伊丹市西台1丁目1番1号
概 要	<p>■設 立 ・昭和43年10月14日</p> <p>■店 舗 数 ・37店舗</p> <p>・阪急伊丹駅と直結する商業ビルの1階と2階に「タミータウン」として店舗を構える。</p> <p>■事務局スタッフ ・常勤スタッフ3名</p>
主な活動状況	<p>■まちなぎわいづくりに向けた商店街の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タミータウンが店舗を構える商業施設を中心に、まちづくりのための様々なイベントを行っている。 ・駅コンサート ・市民バンド「伊丹オトラク」のライブ ・ハロウィンパーティ ・新春もちつき大会 ・伊丹祭り <p>■いたみTMOを中心としたまちなぎわいづくりに向けたイベントへの協賛</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地を活性化するため、いたみTMOを中心に各種のイベントを行っている。タミータウンは会場提供や出店などさまざまなかたちで積極的に協賛している。 ・いたみわっしょい ・冬の元気まつり <p>■まちなぎわいづくり一括助成制度を活用したまちなぎわいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一括助成制度を活用し、これまでに開催してきたイベントの発展・拡大や新規事業によってさらなるまちなぎわいづくりを目指している。 ・地域住民・団体との連携による独自イベントの展開 ・商業ビルの空き店舗を活用し、イベント時にスタンディングバーを開設 ・「まちかどライブ」「まちかど音楽祭」の開催



<ハロウィンパーティ>



<新春もちつき大会>

【復興の現状認識・課題・取り組み方策】

復興の現状認識	<p>■地域全体の復興</p> <p>1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p> <p>■まちなのにぎわいづくり分野の復興</p> <p>1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p>
取り組みの成果・課題	<p>■震災の影響と商店街の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災後、阪急伊丹駅の仮設駅が元の位置から約500mも離れたところに建設されたため、全壊した商業ビルを再建している間に人の流れが変わってしまい集客に影響を及ぼした。 ・現在、商業ビルの4階においては半分以上が空き店舗となっている。この空き店舗を活用し、商業ビルの活性化を図る取り組みを進めている。 ・商店経営者の高齢化はさほど進んでおらず、後継者不足などの問題は表面化していない。 <p>■イベントを通じて生まれるまちなのにぎわい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントを継続して実施することにより、スムーズな運営がなされるようになったとともに、いろいろな人とのつながりが生まれている。イベントは一過性のものであるが、継続することによってにぎわいが戻ってきている。 ・まちなのにぎわいづくり一括助成制度を活用して展開する事業は、各商店の賛同を得て、まちなのにぎわいづくりに向けて団結する機会となっている。 <p>■高校生と連携した商店街のにぎわいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業ビルで行うイベントに、地元高校の生徒が授業の一環として参加している。他商店街と連携して生徒の受け入れを行っており、高校生のような若い世代の視点をまちな活性化に生かす機会となっている。 <p>■地域が一体となって行うまちなのにぎわいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元企業が主催する「蔵祭り」と、タミータウンが協賛しているイベントを同時開催し、地域が一体となって伊丹の活性化に取り組んでいる。
今後の取り組み方策	<p>■一括助成事業を継続的なまちなのにぎわいづくりにつなげる必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一括助成事業の終了後も、自らの力で継続的なまちなのにぎわいづくりが出来るように収益の出る仕組みづくりが必要である。そのために、まちなのにぎわいづくりに取り組んでいる他の団体の活動を把握できるような仕組みが必要である。また、まちなのにぎわいづくりに取り組む団体同士がお互いに情報交換出来るような場が必要である。 <p>■人材を育成するシステムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント開催などの事業を行いながら、発展的に事業を継続していくための人材を育成していくシステムを構築する必要がある。

【調査団体の概要・活動状況】

団 体 名	ウエストコーストぐんげ商店街協同組合
所 在 地	淡路市郡家621番地
概 要	<p>■設 立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成8年2月2日設立 ・阪神・淡路大震災からの復興を目指すとともに、大規模店の脅威に対抗し、地域住民にとって魅力のある商店街を目指して設立。 <p>■店 舗 数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・64店舗(震災前97店舗) ＊うち21店舗が組合加入店舗 <p>■地区の被害状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全壊：765世帯 半壊：736世帯 旧一宮町全体の全半壊数のうち半数にあたる。
主な活動状況	<p>■商店街近代化事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災直後の平成7年に商店街近代化事業を実施し、街路灯などの商店街共同施設の整備を行った。 <p>■「で愛・ふれ愛・たすけ愛 ～広がれ愛の輪～」事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「で愛・ふれ愛・たすけ愛 ～広がれ愛の輪～」をキャッチフレーズに商店街組合が中心となってイベントを実施することで、街のにぎわい創出 ・街の美化・伝統芸能の振興などに取り組んでいる。 <ul style="list-style-type: none"> ・『淡路市誕生記念祭 元気アップぐんげ』 ・『夏の伝統芸能復活祭』（国生み太鼓、社日太鼓、よさこい踊り、ブラスバンド、ハンドベルの演奏を実施） ・『ぐんぐんカード生誕10周年記念祭』 ・『年末ぐんぐんまつり』 ・『震災祈念イベント』（鎮魂灯として蛸壺などに灯をともし黙祷する。炊き出しを行い、震災記録写真をパネル展示する。） ・『秋のフラワーフェスティバル』 ・『春のフラワーフェスティバル』



<震災祈念イベント>



<夏の伝統芸能復活祭>

【復興の現状認識・課題・取り組み方策】

<p>復興の現状認識</p>	<p>■地域全体の復興 1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p> <p>■まちなぎわいづくり分野の復興 1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い ※ハード面に関しては復興は進んでいるが、ソフト面の復興はあまり進んでいない。</p>
<p>取り組みの成果・課題</p>	<p>■震災の影響と商店街の現状 ・被害を受けた住民は仮設住宅・店舗に移らねばならなくなったために、近隣のつながりが失われていった。さらに区画整理の影響で全く同じ場所に戻ることができるにもかかわらず状況となったことが、つながりの喪失に拍車をかけた。 ・他地域に転居できるのは比較的元気な力のある人々なので、結果、高齢者が多く郡家地域に残ることになった。 ・震災後5年程度は商店街の売り上げも回復傾向にあったが、平成12年に大型スーパーが出店したため、売り上げは震災前比3～4割減となった。</p> <p>■商店街のにぎわいづくり ・大型スーパーからいかに客を取り戻すかが課題のひとつである。 ・にぎわいづくりのために現在開催しているイベントは地域のにぎわいにつながっているが、にぎわいが一時的なものになりがちである。 ・イベントの開催が商店街での購買につながっていない側面もあるので、最近購入金額に応じた金券を配布することでリピーターを増やす試みを行っている。</p> <p>■商店街を中心とした地域のつながり ・フラワーフェスティバル(花の植え替え、蛸壺を使った花壇作り)は、地域住民からアイデアを募集して開始した事業であり、園児・児童、PTA、身体障害者団体、老人会、町内会、公民館など多くの人々の協力を得て行われ、取り組みは商店街から街へ広がり定着した。</p> <p>■市町合併の影響 ・市町合併に伴い、旧津名郡5町の商工会も平成19年4月より合併し、一宮町商工会は淡路市商工会の支部になる予定である。 ・これまでは、地域と商工会が緊密に連携して活動していたが、合併のために今後の取り組み方向が定まらないのが不安材料である。</p>
<p>今後の取り組み方策</p>	<p>■さらなる地域のにぎわいづくりに向けた取り組み ・「まちなぎわいづくり一括助成事業」に応募したが、今年度は落選となった。しかし、落選したことによって、まちなぎわいづくりは、地域をあげて取り組まなければいけない課題だと改めて感じた。 ・どうしたら地域が連帯感を持ってまちづくりに臨めるようになるのか、専門的なアドバイスが必要である。</p> <p>■人と人がつながる商店街を目指して ・商売人は、昔から消防やPTAなど、地域において重要な役割を担ってきた。しかし、その他の住民は地域のことに関心を向けなくなってきた。商店街が地域コミュニティの核となって、住民同士の義理や人情にあふれた地域のつながりを礎としたまちづくりを進めていく必要がある。</p>

【調査団体の概要・活動状況】

団 体 名	川西能勢口振興開発株式会社（かわにしTMO）
所 在 地	川西市小戸1-5-2
概 要	<p>■設 立 昭和62年3月 川西能勢口振興開発(株) 設立 平成15年3月 川西市中小小売商業高度化事業構想（TMO構想）策定 平成15年7月 上記構想を川西市が認定</p> <p>■事業内容 中心市街地である川西能勢口周辺の活性化に向け、TMO構想に基づき、商工会等とも連携しながら、各種イベント等を実施</p> <p>■スタッフ 常勤スタッフ5名（専従2名、非専従3名） 非常勤スタッフ1名</p>
主な活動状況	<p>■川西市中小小売商業高度化事業構想（TMO構想）を策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「人と街がきらめくホスピタリティ・シティ」をコンセプトに、生活者の視点を大切にしたにぎわいのある街を目指し、TMO構想を策定した（平成15年）。概ね、①集客イベント②空店舗対策③起業家支援の3分野から42事業を実施している。 <p>■「ふれあいの祭典」に参加（15年）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第15回ふれあいの祭典「阪神北ふれあいフェスティバル」（平成15年）で、川西市商工会と共同で「かわにしいち」を開催した。バナナの叩き売りやバルーンショー等の大道芸、全国の「かわにし」市町の特産品販売などを実施した。 <p>■「かわにし能勢口まつり」への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アステ川西やパルティ川西など川西能勢口周辺の商業者が連携し、地域が一体となった縁日などのイベントを、毎年夏・冬に開催している（平成16年～）。 <p>■「まちなにぎわいづくり一括助成事業」の採択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TMOや商工会、学生など多様な主体が連携し、「感（ときめき）・輝（かがやき）・潤（うるおい）の街」に向けたさまざまな事業を展開（平成18年）。 <ul style="list-style-type: none"> ・クイズラリー、駅周辺のイルミネーションを実施 ・再開発ビルの空き地を活用した朝市の定期開催 ・寄席「かわにし繁昌亭」、ヒップホップダンスコンテストの開催



<かわにし能勢口まつり>



<朝 市>

【復興の現状認識・課題・取り組み方策】

復興の現状認識	<p>■地域全体の復興</p> <p>1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p> <p>■まちなぎわいづくり分野の復興</p> <p>1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p> <p>*震災を直接の原因とする影響は、現在ほぼないと思われる。</p>
取り組みの成果・課題	<p>■商店街の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者や女性向けファッションで構成する商業施設など、魅力ある店舗を立ち上げたが、震災以降の消費落ち込み、経済の低迷、郊外型ショッピングセンターの乱立により、売上げが落ち込んでいる。 ・近隣地域は、阪急電鉄と能勢電鉄の駅が併設し、多くの鉄道利用客がいるが、通勤通学の通過駅となっており、買い物客は梅田や三宮に流れている。 <p>■TMOの運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街や民間商業ビルなどの連携に向けた調整役としてTMOが置かれたが、イベントでの協力などにとどまり、定期的な会合が行われていないなど、日常的な連携を深めるまでには至っていない。 <p>■イベント系中心の事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・TMO構想に掲載された事業は、イベント、空き店舗対策、起業家支援を打ち出しているが、総花的になっているのも事実である。TMO自体が零細な組織で力も限られるため、イベント系の事業（かわにし能勢口まつり等）にとどまっているのが現状である。 <p>■中心市街地活性化協議会の設置に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地活性化法の改正を踏まえ、TMOが中心となり、まちづくり活動家、三セク、民間企業、商工会、商業者等40団体程度の組織・企業による中心市街地活性化協議会を立ち上げる準備をしている。協議会において、川西能勢口地域のあるべき姿を描き、具体化させていくことが課題である。 <p>■情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちを紹介するマップ等の作成など、TMOによる「川西能勢口」発の情報提供は根強く取り組んでいるが、なかなか実を結んでいない。 ・ホームページなどの電子メディアでは、日々情報を更新しないと行けないが、そのための費用や人材が不足している。中心市街地活性化協議会では、ホームページで情報発信できるような体制を整備する必要がある。 <p>■人脈づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学のアカペラサークルやヒップホップ教室、商工まつりなどのイベントを通じて知り合った団体など、活動を進めるなかで幅広い人脈ができ、連携を深めている。
今後の取り組み方策	<p>■住民が自立して進めるまちづくりへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災からの復興には、耐震化などのハード整備だけでなく、ひとやまちなぎわいが戻るようなまちづくりを進める必要がある。 ・そのためには、住民が「自らの力で復興しよう」という認識を持つことが重要であり、住民主体の取り組みを支援する仕組みが求められる。

【調査団体の概要・活動状況】

団 体 名	特定非営利活動法人 ダッシュ明石
所 在 地	明石市東山町3773-37
概 要	<p>■設 立 ・平成16年6月21日（NPO法人認証） ・駅前の商店街等を中心としたまちの活性化、にぎわいづくりが目的の市民活動グループが母体となって設立。</p> <p>■事業内容 ・明石市を拠点とし、「ユニバーサルデザイン、バリアフリーの調査・研究、提言」「元気な地域づくりのお手伝い」「人材の育成」の3分野を中心に活動している。</p>
主な活動状況	<p>■ユニバーサルデザイン、バリアフリーの調査・研究、提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者、障害者、まちに住むすべての人々が安全に、安心して暮らせるようにユニバーサルデザイン、バリアフリーの調査・研究、提言を行っている。 ・「ユニバーサルデザインのキャンパスづくり」についてシンポジウムを開催 ・明石駅前中心市街地にてバリアフリー調査を実施 ・寺社仏閣のバリアフリー調査に参加 ・公共施設のバリアフリー調査を実施 ・高等専門学校でユニバーサルデザインのまちづくりについて講義 <p>■明石のまちのにぎわいづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明石の素敵なところや食を紹介したり、ジャズライブなどの様々なイベントを通じてまちのにぎわいを創出している。 ・明石の鯛、人が食べたとき感じる旨味と科学的分析結果の違いについて感応テストの実施 ・「明旬会(明石の旬の食とお酒を楽しむ会)」を開催 ・明石公園で「明石うまいもの物産市」を開催 ・明石淡路フェリー乗り場内のレストランを舞台にライブハウスを運営 ・「有馬・神戸・明石 震災からの再生を目指して」シンポジウム開催 <p>■人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まちづくりは人づくり」の観点のもと、企業・大学などと連携し、インターンシップの受け入れなどを行っている。



<明石の旬の食とお酒を楽しむ会>



<ジャズライブ in 魚の棚商店街>

【復興の現状認識・課題・取り組み方策】

<p>復興の現状認識</p>	<p>■地域全体の復興 1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p> <p>■まちのにぎわいづくり分野の復興 1. かなり速い 2. やや速い 3. どちらともいえない 4. やや遅い 5. かなり遅い</p>
<p>取り組みの成果・課題</p>	<p>■地元商店街の現状 ・「魚の棚」商店街は全国から観光客が集まるなど集客力があるが、売り上げが今一步伸びない状況が見受けられ、商店街の活性化が必要となっている。 ・世帯の核家族化や、インターネットを通じた販売の増加、宅配の利便性が増したことによる流通形態の変化など、消費に関する状況はさまざまな変化を見せている。</p> <p>■復興の現状認識とまちのにぎわい ・復興の認識は一人ひとり違うので、一概にはいえないが、現在では、復興の状況が直接的に団体の取組内容に影響を及ぼすということはない。 ・定期的を開催するジャズライブには多くの人が集まり、また、ジャズライブの店も増えている。復興への歩みがひと段落して、音楽を聴くなど「潤い」や「憩い」を求める時期に来ていると考えられる。</p> <p>■地産の食を広める取り組み ・地元の食材を活かした料理や地酒を通じて、明石の食の魅力を知ってもらう「明石の旬の食とお酒を楽しむ会」などを定期的に開催し、明石の食を広める取り組みを行っている。 ・いかなごを原材料とした魚醬(醤油)づくりなど、地元食材を使った調味料などの商品化を目指す試みが、新たな食の魅力発見につながっている。</p> <p>■誰もが安心して暮らせるまちづくり ・明石を中心にバリアフリーに関する実地調査を行っており、調査を通じて、安心して暮らせるまちづくりを考える取り組みを進めている。バリアフリーに関する講演を行うなど、福祉のまちづくりに関する情報発信を行っている。</p> <p>■まちづくり活動と一体化した人材育成 ・企業・学校からインターンシップを受け入れ、バリアフリー調査などを共同で行っている。「問題点・課題に自ら気付く」ことの重要性を伝え、まちづくりとともに人材の育成にもつなげている。</p> <p>■ネットワークを活かした取り組み ・メンバーそれぞれが長年の活動から得た豊富なネットワークを持っており、「こんな情報がないか」「手伝ってくれないか」という案件があれば、人・モノ・情報がすぐに集まってくる。それを活かしたスピーディーで遊び心もある活動を行っている。</p>
<p>今後の取り組み方策</p>	<p>■現場を観察する目をもって事業を行う必要性 ・陰の部分に光を当てるような支援活動をこれから行っていきたいと考えているが、そのような場合は必ず異論が生じる。行政は、数ある事案を検討する際には、現場に足を運び、実際に話を聞いて判断し、事業を進めることが求められる。</p>